

# 鹿島槍ヶ岳東尾根 山行報告

【日程】 2015年4月24～25日

【メンバー】 K多、Y川

【報告者】 Y川

【コースタイム】

24日 大谷原 (8:30) ～ 東尾根上 (9:30) ～ 一ノ沢ノ頭 (12:00 12:40) ～ 二ノ沢ノ頭 (13:40) 幕営

25日 二ノ沢ノ頭 (5:50) ～ 第1岩峰取付 (7:20) ～ 第1岩峰上 (8:40) ～ 第2岩峰取付 (9:50) ～ 第2岩峰上 (10:55) ～ 天狗尾根合流 (11:25) ～ 鹿島槍ヶ岳・北峰 (12:05 12:10) ～ 南峰 (12:45 13:05) ～ 冷池山荘 (14:00 14:40) ～ 大谷原 (16:55)

24日 快晴

2年前の敗退以来、鹿島槍東尾根はずっと気にかかっていた。K多さんも同じ気持ちだったようで、4月後半の金～日曜日に日程を組み、渋滞回避を図り登ることとした。今回天気は安定しており、安心して登れそうである。快晴の林道を辿り、ヘアピンカーブ過ぎの黄看板から取り付く。カタクリが沢山咲いており、楽しく登れる。すぐに雪の斜面となり、トレースを辿り登って行く。2年前より雪が少なく、前回は一ノ沢ノ頭までほぼ尾根通しに登れたが、今回は左側を巻いて登る箇所もあった。一ノ沢ノ頭～二ノ沢ノ頭間の痩せ尾根は雪が少ない上にグサグサに腐っており、気が抜けなかった。一部ハイマツ漕ぎもあった。順調に二ノ沢ノ頭に到着、睡眠不足もあり今日は予定通りここまでとする。トレースがあったのでテントサイトも期待したが、残念ながら張り跡は無くテントサイトを作った。その後誰も登って来ず、我々だけでのんびり過ごした。

25日 午前曇り 午後晴れ

夜、小さな気圧の谷が通過したようで、短時間だが強風が吹き雪も降ったので心配したが、未明にテントから外を覗くと晴れ上がっていた。気温は低く、雪が硬いと予想されたので陽が昇ってから出発する。すぐに次のピークのトラバースに入る。予想通り雪が硬く、一部前爪トラバースも含め、確実なアイゼンワークが必要である。滑落したらまず止まらないと思われる硬さと傾斜であった。

ピークを巻ききいたら右手の斜面に入る。傾斜はあるが、トレースはあり、雪が安定しているから安心して登れる。ここから第1岩峰までの登りは、傾斜はあるものの今回の登りでは最も安心できる所であった。傾斜が落ちると眼前が第1岩峰で、テント1張なら張れる程度のスペースがある。

第1岩峰はルンゼを登ることとし、K多さんがまずリードする。難しくはないが、浮き石が多くそれに神経を使う登りであった。約30mでビレー、次にY川が45mほど伸ばして傾斜が落ちた所でビレー。第1岩峰はロープが絶対必要とは言えない傾斜だが、浮き石が多く、荷物が重いので

落ちたらどうなるか分からないため、ロープを使った方が良い。

ここから第2岩峰までのトラバースが、ルート中最も気になる箇所であった。稜線添いに行くルートもあるが、気合いの入っているK多さんは真横へのトラバースに入る。前爪トラバースが100m強続き、集中力が試される所であった。中間の露岩を廻り込んだら斜め左上に第2岩峰基部までトラバース気味に登った。おそらく、技術的には稜線添いを登った方が容易であろう。

第2岩峰はK多さんがリード、チムニーのチョックストーン下までは難なく到達したが、CSの乗越に苦労している。上半身はCS上に出ていたので、そこでリュックを上への岩棚に載せ、空身で越える安全策をとった。私の感想では、CS下でピッチを切ることができ、またCS上にもスペースがあるので、CS下でピッチを切り、トップは荷物を預けて空荷でCSを越え、荷物を引き上げればさほど時間を要せず安全に登れると思う。セカンド以降は、ホールドが有るので何とかなる。やはり、テント泊装備を背負ってはいはきつい。

第2岩峰上はやや急な雪稜で、これを登り切ると荒沢の頭、鹿島槍北峰への美しい雪稜のスカイラインが目にとびこんできた。ここからは雪稜歩きだが、荷物が重いこともあり、北峰まで気が抜けなかった。しかし、今日は午前から曇りのため気温が上がっていないようで、雪がさほど柔らかくなっていなかったのは幸運であった。

北峰は風が強く、寒かった。北峰からの下りはほぼ夏道で、北峰と南峰間是一部雪上を歩いた。南峰の登りもほぼ夏道で、雪上を登る箇所は少なかった。南峰到着時にはすっかり晴れ上がっており、今山行で初めて他の登山者と出会った。

冷池山荘は開業準備をしており、情報を仕入れた。今年は急に雪解けが進み、残雪の多い、少ないは場所によって違うため一概には言えないそうである。赤岩尾根から西沢への下降点について教えていただいた。西沢下部には例年にない大きな雪崩跡があるため、下降は自己責任で、と何度か念をおされた。

縦走路から赤岩尾根へのトラバースに入り、しばらく尾根を下降する。しかし、雪が腐っていて不安定であるため、疲れていることもあり嫌なルートである。西沢への下降点は、赤岩尾根へのトラバース終了点から2段ほど下った所が良いとのこと、高千穂平まで行くと沢上部の傾斜が急で危険だそうである。右を見ると、たまらなく誘惑される西沢が広がっていた。昨日はブロック雪崩や斜面崩落の音を何度か耳にしたが、今日は全く聞いていない。多分、昨夜寒気が入り風もあり、気温が低下しているためだろう。そこで、西沢下降を決定、ノンストップで下部まで下降した。小屋の方が言うておられたように、下部は幅20～30m、高さ数mのえぐられたような溝が続いており、一体何が起きればこうなるのか、見当が付かなかった。



一ノ沢ノ頭から二ノ沢ノ頭へ



第1岩峰への登り



右第1岩峰、左第2岩峰



第2岩峰上からみたトラバースルート





荒沢ノ頭から見た北峰



雪稜の登り



北峰からの南峰



南峰からの北峰と東尾根